

第3章 上野原市の将来像

3-1 都市のイメージ

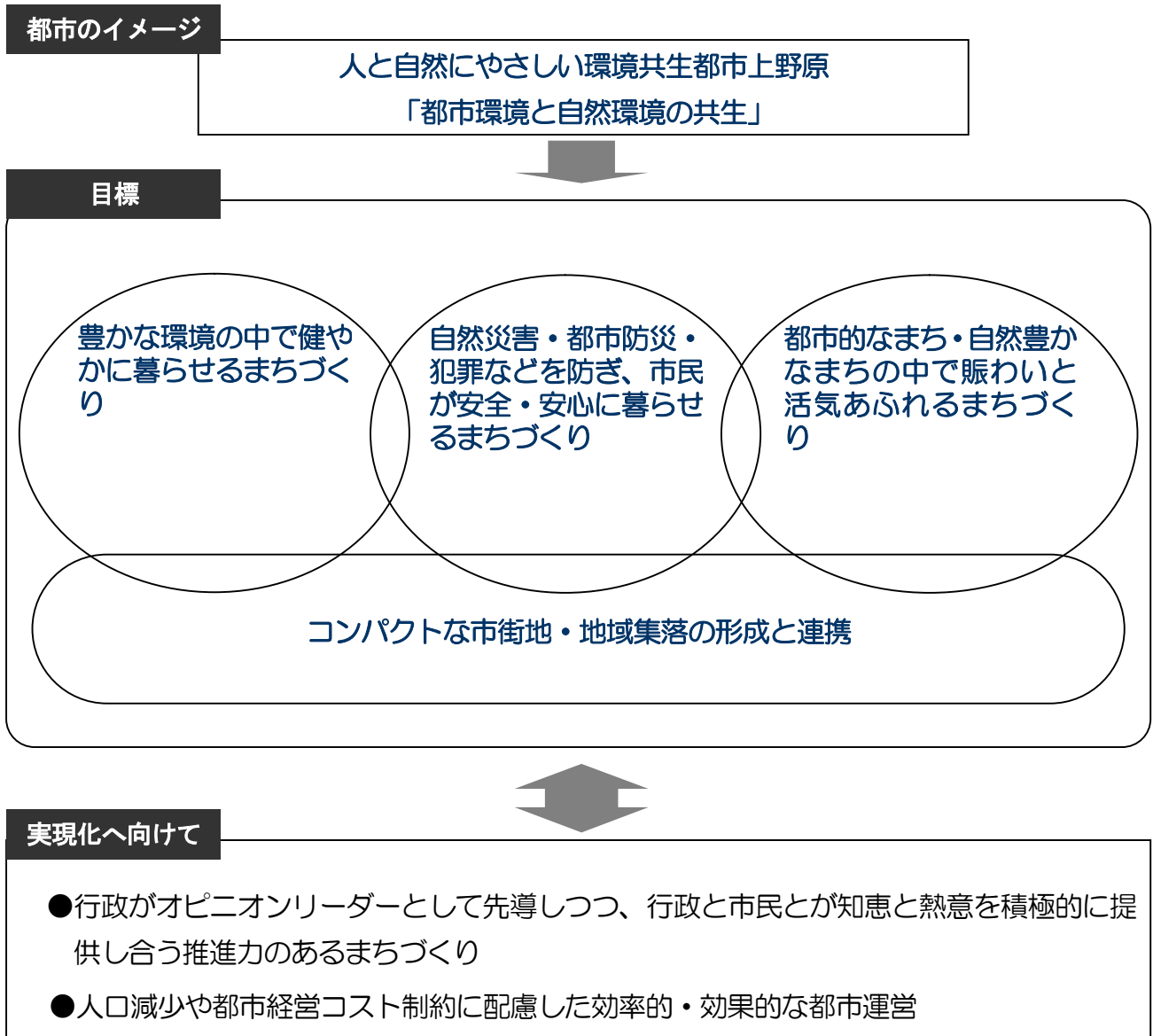
本市は、河川によって形成された河岸段丘に市民生活の基盤を成し、里山、河川が作り出す風光明媚な地域の中に多くの歴史や文化が息づくまちです。

中心市街地を中心とする都市環境や周辺の豊かな自然環境の中で、市民が快適に生活していく循環型社会を目指すため、都市のイメージを「人と自然にやさしい環境共生都市上野原『都市環境と自然環境の共生』」と設定しました。

3-2 まちづくりの目標

第2章に示した本市の課題を第1次上野原市長期総合計画等の上位計画と整合を図りながら解決するために、目標には4つの大きな柱を設定しました。

◆ 都市のイメージとまちづくりの目標



目標1：『豊かな環境の中で健やかに暮らせるまちづくり』

- ・子どもたちが元気に遊べる場づくりを進めます。
- ・中山間地におけるコミュニティスペースの創出を進めます。
- ・地域間交流を促進する道路ネットワーク整備を促進します。
- ・公共交通機関の利便性向上を図ります。
- ・エネルギー資源開発やリサイクルなどの自然資源の活用を促進します。
- ・後世に美しい自然を残すために、自然・風景を適切に保全します。
- ・潤いのあるまちなみ形成や憩いの場の形成を進めます。
- ・市営住宅のみならず民間との連携も視野に入れた住宅施策の充実を図ります。
- ・低利用・未利用地の有効活用を図ります。

◆ 目標達成のために推進すべき事項等

土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ・風致地区条例制定 ・景観計画策定 ・文教施設への緑化整備 ・河川流域部へのレクリエーションゾーン整備
社会基盤整備	<ul style="list-style-type: none"> ・公園整備（身近な公園、都市公園 等） ・レクリエーション拠点整備 ・幹線道路（国道・主要地方道）の整備 ・補助幹線道路（一般県道・一級市道）の整備
中心市街地形成	<ul style="list-style-type: none"> ・市街地の良好な景観形成 ・密集市街地の改善
総合的まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域環境と調和する集落地形成（農用地・里山景観保全 遊休地活用等） ・地或交流拠点整備（廃校利用、活動拠点整備） ・効果促進（各種ソフト施策）

目標2：『自然災害・都市防災・犯罪などを防ぎ、市民が安全・安心に暮らせるまちづくり』

- ・誰もが安全に歩けるみちづくりを進めます。
- ・道路・公園・下水道など生活基盤の充実を図ります。
- ・地震、水害、火災など災害に強いまちづくりを進めます。
- ・防犯に配慮したまちづくりを進めます。

◆ 目標達成のために推進すべき事項等

土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ・準防火地域、建築基準法第22条・23条地区の検討
社会基盤整備	<ul style="list-style-type: none"> ・土砂災害防止対策（ハザードマップの充実） ・駅、道路等のバリアフリー化（エレベーター設置、段差解消 等） ・幹線道路・補助幹線道路整備に係る道路付属物整備（道路照明・防犯灯、防護柵、電線類の地中化 等） ・防災無線や通信基盤等の活用促進 ・危険箇所・狭あい箇所の改善 等
中心市街地形成	<ul style="list-style-type: none"> ・市街地内の交通安全施設整備
総合的まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所等の整備 ・福祉・保健施設の整備

目標3：『都市的なまち・自然豊かなまちの中で賑わいと活気あふれるまちづくり』

- ・生活環境の質の向上を図ります。
- ・スマートインターチェンジ整備による都心部からの交流人口を増やします。
- ・上野原駅周辺の再整備による利便性向上、交流人口増加を図ります。
- ・商店街の活性化を促進します。
- ・商店街へのアクセス向上により流入促進を図ります。
- ・工業団地の利用促進により活力ある産業地域の形成を図ります。
- ・情報ネットワークの活用推進を図ります。
- ・歴史的資源、文化的資源の保全・活用により観光振興を図ります。
- ・新たなレクリエーション拠点整備、交流拠点整備により賑わいを創出します。

◆ 目標達成のために推進すべき事項等

土地利用	<ul style="list-style-type: none">・工業団地利用促進・山間集落地域における6次産業化推進
社会基盤整備	<ul style="list-style-type: none">・スマートインターチェンジ整備に係る道路ネットワーク整備・道路景観整備、道路植栽整備、道路交差点改良 等
中心市街地形成	<ul style="list-style-type: none">・中心市街地活性化構想に基づく商店街整備、空き店舗活用による活性化・土地区画整理事業、上野原駅周辺整備
総合的なまちづくり	<ul style="list-style-type: none">・地域観光拠点整備・産・学・官の連携促進・自然エネルギーの活用促進・各地区の定住促進

目標4：『コンパクトな市街地・地区拠点の形成と連携』

- ・公共施設の再配置、集約化と跡地の有効活用により、効率的で効果的な都市形成を促進します。
- ・中心市街地と各地区における拠点整備および拠点間を結ぶ道路ネットワーク整備による効率的な都市ネットワーク形成を図ります。
- ・太陽光発電など自然エネルギーを活用した省エネルギー・低炭素まちづくりの実現を図ります。
- ・各地域におけるコンパクトで効率的なまちづくりを促進します。

◆ 目標達成のために推進すべき事項等

土地利用	<ul style="list-style-type: none">・各地域における特徴ある資源の活用促進
社会基盤整備	<ul style="list-style-type: none">・公共施設の適正配置・各地域間交流のための道路網整備・各地域内での生活確保のための基盤整備
中心市街地形成	<ul style="list-style-type: none">・中心市街地の拠点整備強化（シビックゾーン※の設定）
総合的なまちづくり	<ul style="list-style-type: none">・交流拠点整備（中心市街地への滞留拠点整備）・循環型公共交通体系の確立

※シビックゾーンとは、市役所を中心とした公共公益施設が集積する市民生活の中心となる区域。

3-3 将来の都市構造

上野原町と秋山村が合併した新しい本市の都市構造は、山と川、河岸段丘といった地形構造を土台に、上野原地区の市街地と川沿いに古くから発達した集落地が帯状に形成されている構造となっています。

構造的にみた問題点・課題としては、上野原地区およびその周辺への人口集中と山間地域の過疎化の進行により地域間の格差が拡大していること、中心市街地の商業活動が停滞化していること、中心市街地および地域間を連絡する道路・交通基盤が弱いことなどが挙げられます。

将来像やまちづくりの目標を実現するため、本市の個性でもある台地の構造を土台に、次のような考え方に基づいて将来のまちの骨組みづくりを進めていきます。

都市構造の考え方

「地域ごとの特色」と「交流」による機能的・効率的な都市を目指して

1) 拠点形成：機能分担による持続可能かつ効率的・効果的な地域・地区拠点形成

●市の中心部（中心市街地とその周辺）に都市圏域の自立を支え牽引する拠点エリア設定

- 本市における都市圏域の自立を支え牽引する拠点として、上野原地域拠点エリアを設定します。
- 上野原地域拠点エリアは、行政、医療、教育、文化、商業等の多様な都市機能を有する、上野原地区中心市街地周辺および上野原駅周辺とします。
- 上野原駅周辺整備やシビックゾーン形成、中心市街地活性化対策などにより、人口の流出を阻止し、賑わいを創出する拠点整備を行います。

●地域の生活を支える「地区拠点」の設定

- 全体構想で示した本市の将来都市構造を踏まえ、4地域・9地区を設定します。
- 最小単位である地区には、地域の生活を支える「地区拠点」を設定し、医療・雇用・教育などの機能を整備していきます。また、上野原地域拠点エリアから発信される情報の受信拠点および地区ごとの特徴を生かした産業を促進する拠点としても位置づけます（農業・工業・観光・サービス：6次産業化）。
- なお、巖地区の拠点となるコモアしおつ周辺については、既に住宅地が形成されていることから、生活者に対する更なるサービス向上を図ります。

●地域の魅力を「見せる場」「活かす場」としての拠点づくり

- 上野原駅周辺整備および（仮称）談合坂スマートインターチェンジ供用開始により、本市のエントランスが充実します。これを契機に市の様々な魅力を発信する仕掛けとしての拠点づくりを行います。山間地域における良好な景観、旧甲州街道の宿場町や石畳、一里塚、与謝野晶子が愛した桂川の水辺風景といった歴史や美しい風景などを「見せる場」として、また、それらの魅力を発信する拠点、直売所のような販売拠点といった魅力を「活かす場」として展開します。
- また、その拠点づくりにおいても森林資源（間伐材を含む）を活用するなどして地域の魅力を活かします。

2) ネットワーク形成：拠点をつなぐ骨格的な交通ネットワーク形成

●市内外の地域間交流を強化する交通ネットワーク整備

○複雑な地形条件、広く分散する山間集落地などの制約の中、地域間を連絡する交通網を強化していくことも本市の大きな課題です。

○幹線道路・補助幹線道路の整備を図り、地域の活力の向上、地域間の連携の強化を図ります。

●中心市街地の活性化に資する道路網の改善

○市の発展を支えてきた中心市街地は停滞化しており、中心市街地の再生・活性化は本市の重要な課題のひとつです。

○また、市街地を横断する国道20号は、第1次緊急輸送道路として、本市や周辺市町村における安全・安心の構築に資する路線に位置づけられています。

○市内の都市計画道路に関する見直しおよび整備促進を図ります。国道20号については現道拡幅・歩道整備等に併せて、通過交通抑制のためのバイパス化（迂回路）を国に求めています。

3) 主要ゾーン形成：有効な資源活用（保全・開発）による地域の魅力向上

●自然と共生する地域づくり

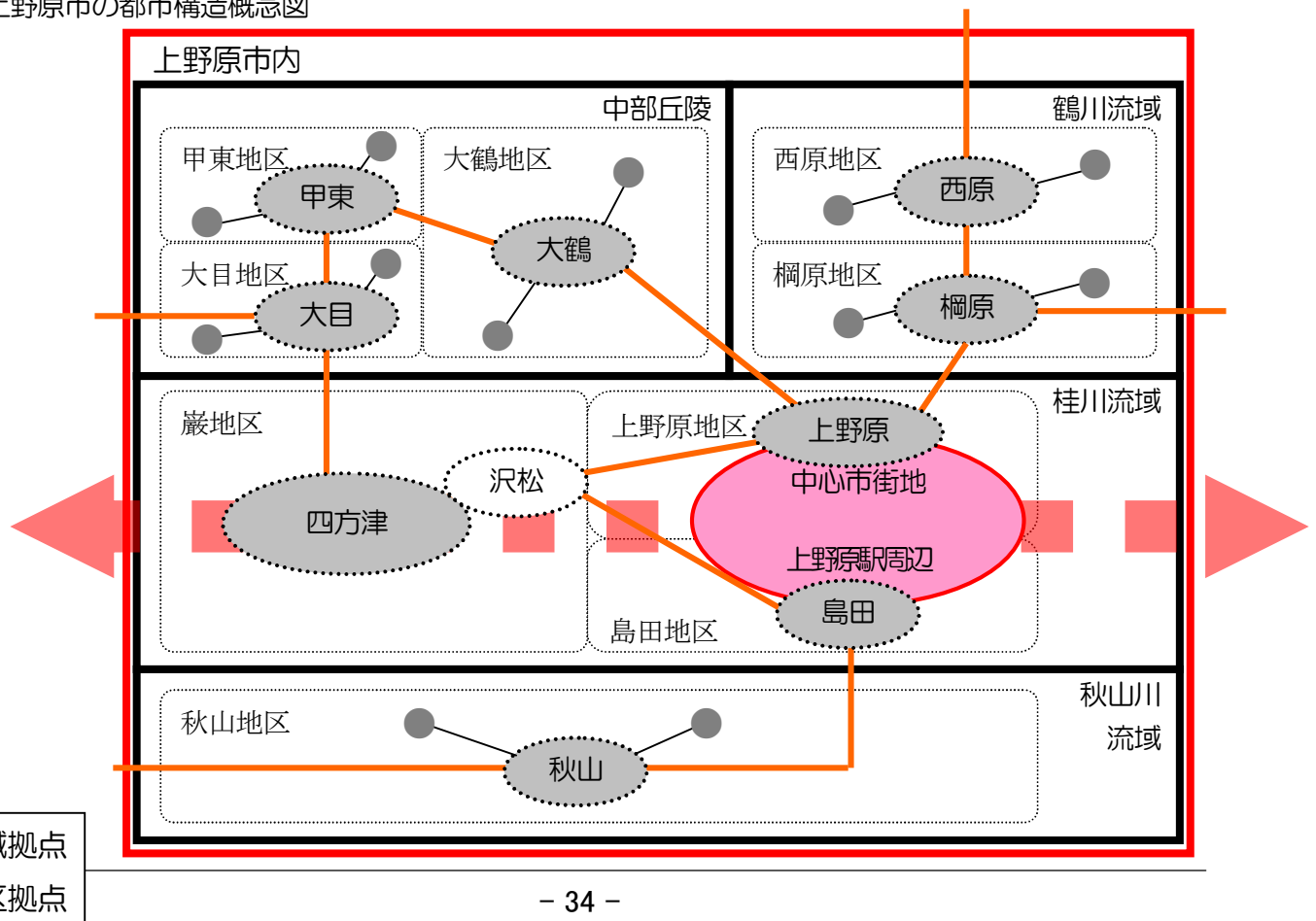
○本市は市全域の80%が森林であり、豊かで美しい自然に恵まれています。この良好な自然環境や景観を損なわないよう、地域の特性にふさわしい計画的な土地利用を形成していきます。

●今後の発展に資する基盤整備

○（仮称）談合坂スマートインターチェンジ供用開始により、市への新たなエントランスが形成されることから、これまでの都市構造が変化する可能性があります。

○状況に応じ、本市のこれからの発展に資する基盤整備を検討します。

上野原市の都市構造概念図



① 拠点形成：機能分担による持続可能かつ効率的・効果的な地域・地区拠点形成 <ul style="list-style-type: none"> ・市の中心部に都市圏域の自立を支え牽引する地域拠点エリア設定 ・地域の生活を支える「地区拠点」の設定 ・地域の魅力を「見せる場」「活かす場」としての拠点づくり 	
--	--

◆ 推進すべき事項等

土地利用	—
社会基盤整備	・地域交流拠点整備、地域観光拠点整備 等
中心市街地形成	・中心市街地の地域拠点エリア化 ・土地区画整理事業、上野原駅前周辺整備
総合的まちづくり	・効果促進（各種ソフト施策） ⇒交流拠点、観光拠点などにおける市民参加の枠組み確立

②ネットワーク形成：拠点を繋ぐ骨格的な交通ネットワーク形成 <ul style="list-style-type: none"> ・市内外の地域間交流を強化する交通ネットワーク整備 ・中心市街地の活性化に資する道路網の改善 	
--	--

◆ 推進すべき事項等

土地利用	—
社会基盤整備	・道路網整備（幹線道路、補助幹線道路整備）、公共交通整備（地域間の公共交通整備 など）、スマートインターチェンジの周辺整備
中心市街地形成	・上野原駅周辺整備
総合的まちづくり	・安全・安心、潤いのある道路・歩道整備 ・市全域における案内・サインの充実

③主要ゾーン形成：有効な資源活用（保全・開発）による地域の魅力向上 <ul style="list-style-type: none"> ・自然と共生する地域づくり ・今後の発展に資する面整備 	
---	--

◆ 推進すべき事項等

土地利用	・商業、観光、工業など地域の特徴に合った土地利用の促進 ・山間集落地域における6次産業化推進 ・美しい自然、景観保全のための制度、条例などの整備
社会基盤整備	・公共施設の適正配置と自然エネルギーの活用 ・各地域間交流のためのネットワーク整備 ・各地域内での生活確保のための基盤整備（道路、下水道、公園 等）
中心市街地形成	・中心市街地活性化構想に基づく商店街整備、活性化促進 ・土地区画整理事業、上野原駅周辺整備
総合的まちづくり	・交流拠点整備（中心市街地への滞留拠点整備） ・効果促進（各種ソフト施策：各地区内の地区拠点整備） ⇒学校などの跡地利用（医療・職業・住居近接のための拠点整備） ⇒循環型公共交通体系の確立

◆将来都市構造（市全域）

